



Y.Hatanaka

## THE LORD DERBY CHALLENGE TROPHY

## 第57回 ダービー卿チャレンジトロフィー (GⅢ)

1着 賞 41,000,000円 2着 16,000,000円 3着 10,000,000円 4着 6,200,000円 5着 4,100,000円  
付加賞 490,000円 140,000円 70,000円



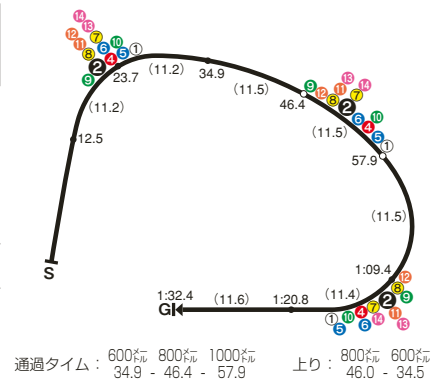
レース映像は  
こちらでご覧  
いただけます。

4歳以上、2024.3.30以降2025.3.30まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 ハンデキャップ

2025.4.5 中山 晴・良 芝1600m 国産 (特指)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	トロヴァトーレ	牡 4	57.5	J.モレイラ	1:32.4	9-6-8	34.0	508(+10)	1.7①	鹿戸雄一(美浦)	110
2	⑦	コントラポスト	牡 5	55	田辺裕信	クビ	4-6-6	34.1	472(-2)	10.6③	菊沢隆徳(美浦)	104
3	⑧	キーバカルム	牡 4	56	A.シュタルケ	¾	9-9-11	33.9	490(-4)	14.2⑥	中竹和也(栗東)	104
4	⑨	マテンロウオリオン	牡 6	56	横山典弘	ハナ	13-13-11	33.7	472(-14)	25.2⑧	昆 貴(栗東)	104
5	⑬	ゾンニッヒ	牡 7	57.5	荻野 極	クビ	4-9-8	34.0	476(-2)	48.3⑩	池江泰寿(栗東)	
6	⑩	シャンパンカラー	牡 5	58.5	内田博幸	クビ	9-12-13	33.9	512(-2)	20.1⑦	田中 剛(美浦)	
7	⑩	タシット	牡 6	56	横山和生	クビ	2-3-3	34.6	470(-4)	12.6④	中川公成(美浦)	
8	⑪	ゴートゥファースト	牡 5	55	石川裕紀人	¾	9-9-8	34.1	482(+6)	54.6⑫	新谷功一(栗東)	
9	⑨	ロジリオン	牡 4	58.5	松山弘平	ハナ	4-6-6	34.4	498(±0)	6.4②	古賀慎明(美浦)	
10	⑥	シュバルツカイザー	騾 7	57	大野拓弥	1½	4-5-4	34.9	502(-4)	140.7⑬	大竹正博(美浦)	
11	①	アサカラキング	牡 5	58	斎藤 新	ハナ	1-1-1	35.2	532(+6)	12.7⑤	斎藤 誠(美浦)	
12	④	ノーブルロジャー	牡 4	57.5	津村明秀	クビ	4-3-4	35.1	496(-2)	28.8⑨	吉岡辰弥(栗東)	
13	⑤	メイショウチタン	牡 8	57	吉田 豊	1¾	2-2-2	35.5	474(-2)	36.1⑫	本田 優(栗東)	
除外	③	エコロブルーム	牡 4	57.5	横山武史				472(±0)		加藤征弘(美浦)	

単勝②170円(1¼) 複勝②110円(1¼) ⑦230円(4¼) ⑧250円(5¼) 枠連②-⑤690円(2¼)  
馬連②-⑦910円(3¼) ワイド②-⑦380円(2¼) ②-⑧430円(4¼) ⑦-⑧1,130円(13¼)  
馬単②-⑦1,250円(3¼) 3連複②-⑦-⑧3,070円(7¼) 3連単②-⑦-⑧9,170円(14¼)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m  
34.9 - 46.4 - 57.9 46.0 - 34.5

### アラカルト

- ・J.モレイラ騎手はダービー卿チャレンジトロフィー初勝利。  
JRA重賞は本年2勝目、通算15勝目
- ・鹿戸雄一調教師はダービー卿チャレンジトロフィー初勝利。  
JRA重賞は本年初勝利、通算15勝目
- ・レイデオロ産駒はJRA重賞通算2勝目
- ・4歳馬の勝利は23年インダストリアに続く通算24回目
- ・エコロブルームは柙内駐立不良[突進]。柙外に跳び出し疾病[鼻部挫創]を発症したため競走除外。発走時刻6分遅延

# トロヴァトーレ *Trovatore*

牡 青鹿毛 2021.4.30生  
北海道安平町 ノーザンファーム生産  
馬主・(有)サンデーレーシング 美浦・鹿戸雄一厩舎  
馬名意味・吟遊詩人(伊)

ソニンクGB系 B3

レイデオロ 鹿毛 2014	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	ラドラーダ 青鹿毛 2006	シンボリクリスエスUSA レディブロードUSA
	エンバイアメーカーUSA 黒鹿毛 2000	Unbridled Toussaud
シャルマント 青鹿毛 2016	ライツェント 青鹿毛 2007	スペシャルウィーク ソニンクGB

5代までのインブリード：Mr.Prospector S4×S5×M5×M5  
Nureyev S5×M5

## INTERVIEW

高見優也 厩舎長(ノーザンファーム空港)

### 期待していました

育成時は気性的に行きたがる面があったので、マイルの方が力を出せるのではないかと思っていました。気性面の難しさもあって、なかなか実になりづらい面もありましたが、このレースでは馬体を大きくしてただけでなく、コントロール性が高まってきた最近のレース内容からも期待していました。それにしても、ゴール前の「モレイラマジック」は見事でした。



R.Kaji

1番人気馬の勝利は2015年のモリス以来10年ぶり。レースの「連敗ストッパー」も務めた本馬は2歳時、デビュー2連勝を飾り将来を嘱望されたものの、弥生賞ディーフィンパクト記念6着、青葉賞も11着に敗れ、クラシックには進めなかった。それでもマイル近辺の距離に狙いを定められてからは順調に出世し、重賞ウイナーの仲間入り。覚醒したレイデオロ産駒には、ここをステップに安田記念で戴冠を果たしたモリスのイメージも重なる。

### 父レイデオロ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、首17戦7勝(日本ダービー<sup>G1</sup>、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>、オールカマー<sup>G2</sup>、神戸新聞杯<sup>G2</sup>、ホープフルS<sup>G2</sup>、ジャパンC<sup>G1</sup> 2着、有馬記念<sup>G1</sup> 2着)、最優秀3歳牡馬、最優秀4歳以上牡馬、20年から供用〔代表産駒〕サンライズアース(阪神大賞典<sup>G2</sup>)、**トロヴァトーレ**(本馬)、ミナデオロ(白百合S・L)、ウォーターガーベラ(チューリップ賞<sup>G2</sup> 2着)、カラムテアノス(共同通信杯<sup>G2</sup> 2着)、アドマイヤテラ(菊花賞<sup>G1</sup> 3着)、ボンヌソフレ(フィリーズレビュー<sup>G2</sup> 3着)、ジュンライデン(萩S・L 3着)

### 母シャルマント

北海道安平町 ノーザンファーム生産 不出走

ライツフォル(20 牡父ミッキークイール)中央12戦5勝(オータムリフS<sup>Op</sup>、サイレンススズカC)<sup>⑧</sup>

**トロヴァトーレ** 本馬(21 牡父レイデオロ)中央10戦6勝(ダービー卿チャレンジトロフィー<sup>G2</sup>、ニューイヤーズ・L、秋風S、芦ノ湖特別、葉牡丹賞、キャピタルS・L 2着) 獲得総賞金140,063,000円

チルウィズミー(22 牝父ドウラメンテ)<sup>⑨</sup>

(23 牡父リアルスティール)

(24 不受胎)

### 祖母ライツェント

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央0勝

**オデュエス**(13 騾父ファルブラヴIRE)中央3勝(橘S<sup>Op</sup>、すずらん賞<sup>Op</sup>、クロッカスS<sup>Op</sup> 2着)、地方3勝(兵庫ジュニアグランプリ<sup>Jn</sup> II 3着)

**ディアドラ**(14 牝父ハービンジャーGB)中央7勝(秋華賞<sup>G1</sup>、アイルランドトロフィー府中牝馬S<sup>G2</sup>、クイーンS<sup>G2</sup>、紫苑S<sup>G2</sup>、HTB賞、矢車賞、ファンタジーS<sup>G2</sup> 3着、オークス<sup>G1</sup> 4着)、英、香、首、沙、愛、仏、バーレーン1勝(ナッソーS・英<sup>G1</sup>、香港C<sup>G1</sup> 2着、英チャンピオンS<sup>G1</sup> 3着、ドバイターフ・首<sup>G1</sup> 3着)

シャルマント(16 前出)

**リュベック**(19 牝父ハービンジャーGB)中央3勝(若駒S・L、但馬S、ニュージールランドトロフィー<sup>G2</sup> 3着)<sup>⑩</sup>

**フリームファクシ**(20 牡父ルーラーシップ)中央5勝(きさらぎ賞<sup>G2</sup>、すばるS・L、コールドムーンS<sup>Op</sup>、ポートアイランドS・L 2着)<sup>⑪</sup>

### 曾祖母ソニンクGB

不出走。01年輸入、12年死亡、**ノーザンリバー**(さきたま杯<sup>Jn</sup> II 2回)、**ランフォルセ**(浦和記念<sup>Jn</sup> II)の母、**ロジュニヴァース**(日本ダービー<sup>Jn</sup> I)の祖母

## 圧倒的な支持に应运えて重賞初制覇

3月のJRA重賞は本命馬の苦戦が目立ち、1番人気馬の勝利はオーシャンSのママコチャのみに終わった。月が変わって4月、先に発走したチャールダウンスCのアルテヴェロチェも2着に敗れ、連敗記録は17まで伸びたが、そんな流れに終止符を打ったのがダービー卿チャレンジトロフィーのトロヴァトーレ。マイル路線で上昇気流に乗った4歳馬が、圧倒的な支持(単勝1・7倍)に応えて重賞初制覇を果たした。

有力候補の1頭と目されていたエコロブルームが、発走前にゲート内で突進した際に疾病(鼻部挫創)を発症し、競走除外に。仕切り直しのスタートが

切られると、最内枠を引いたアサカラキングが勢いよく飛び出して先手を奪取、緩みのないラップを刻みながら軽快に飛ばす。前走の洛陽Sで約1年ぶりの勝利を飾り、2番人気に支持されたロジリオンは中国の外につけ、3番人気のコントラポストがその背後を追走。出足が少し鈍かったトロヴァトーレのJ・モレイラ騎手は、後方馬群の内を脚を溜めた。

4コーナーに差し掛かると隊列は凝縮。直線半ばでは馬群を捌いて伸びたコントラポストが先行勢をかわして抜け出しをはかったが、これを上回る末脚を発揮したのがトロヴァトーレだった。内々で立ち回り、前との差を詰めて向いた直線、内ラチ沿いに開いた狭いスペースを狙ってモレイラ騎手が仕掛けると、馬も鋭く加速。外から詰め寄るコントラポストを抑え、クビ差の接戦に競り勝った。